

(一般)

互いに尊重し合う心豊かな子どもを育てる
～一人一人の違いを認め合う意識を育てる授業づくり～

大阪市立中道小学校 研究部

低学年部

高学年部

1. 研究主題設定の理由

本校では、コミュニケーション力を育てる取り組みや話し合い活動を効果的に取り入れた指導法の工夫などを通して、主体的に活動したり自分の思いや考えを表現したりする子どもの心の育成をめざし、研究を進めてきた。学習活動において「伝え合う力」を中心に、自分の思いや考えを伝え合う活動に取り組んできたが、児童の実態から「自分の思いや考えたことを相手に伝える力が弱い」「物事を自己中心にとらえたり、考えたりした言動になっている」「相手の立場に立って考えたり、相手の気持ちを受け入れたりする、自他を大切に思う心の育成」などが課題として明らかになった。そこで、これまでの研究成果を活かしたうえで、児童の内面的な心の育成に焦点を当てることとした。そして、本校の研究主題を「互いに尊重し合う心豊かな子どもを育てる」とし、さらに「一人一人の違いを認め合う意識を育てる授業づくり」を副題として、「人と人との関係や仲間づくり」「相手の立場に立って考える・思いやるなどの互いの違いを認め合う心の育成」を大切に、研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

本校の児童は、自分の思いや考えを伝え合うことや相手の考えを受け入れる姿は見られるようになってきた。しかし、学校生活の様々な場において、自分の思いや考えに自信がもてず、恥ずかしさや不安な思いから交流できない児童も見られた。また、学習時には考えることができるが、学習後の生活の場で活かすことができていなかったり、感情的になり相手の立場に立って考えることができなかったりする課題が残った。また、児童の実態把握、課題を明確にするために、全校児童アンケートを実施した。アンケート結果を分析することで、「自分の思いや考えを明確にできる時間の確保や思いや考えを交流したり、発表したりする場を多く設けること」「身近な出来事を題材にした学習形態の工夫、学校生活の様々な場において相手の立場に立って考えたり、伝えたりする時間の確保」などが課題として見えてきた。そこで、自分の思いや考えに自信をもって交流できるような学習形態の工夫や雰囲気作り、相手意識に重点を置いた取り組みが必要であることを確認し、研究主題でもある「互いに尊重し合う心豊かな子どもを育てる」心の育成にも研究を深め、取り組んでいくことにした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

研究の視点① 自分の思いを明確にし、自ら伝えられる力の育成

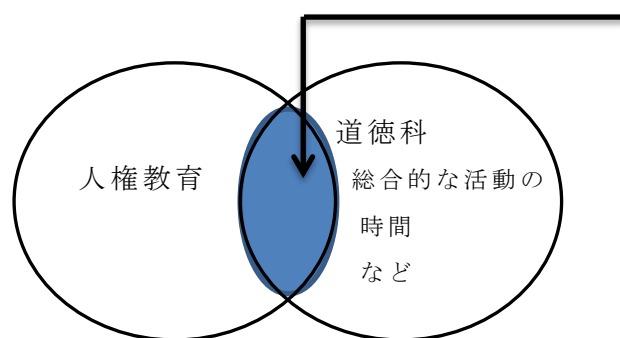
児童の実態をふまえ、教材の研究・分析から、児童が自分の思いや考えを伝え合う活動を取り入れ、発表や交流の場を重点に置いた活動を行うようにする。自分の思いや考えを明確にすることで相手に伝える自信につながると考える。自分の思いや考えを相手に伝え

るためには、ワークシートなどを活用し、自分の思いや考えを書き留めることで明確にすることができるようにする。少人数や全体の交流活動を行うことで自ら伝えられる力を育てることができる考える。

研究の視点② 相手を思う気持ちや考えを受け入れたり、認め合ったりする心の育成

相手の思いや考えを受け入れたり、認め合ったりする力や自他を思う心情を育てるために、授業だけでなく、その他の教育活動において、主体的・対話的な活動を取り入れることが重要である。学校のあらゆる場や休み時間・当番活動などの時間においても、自分の思いだけを感情的に出してしまうことが多いという児童の実態がある。自分の思いや判断によって行動したことを振り返ることが必要である。その中で、自分の思いだけでなく、相手の立場に立って考えたり、相手の思いを受け止めたりする対話的な場や時間を十分に確保し、積み重ねていくことが大事である。日々の教育活動の積み重ねにより、相手を意識する気持ちや言動が育っていくと考える。

2点の研究の視点に重点を置き、取り組んでいくことが互いに認め合える心の育成になっていくと考えた。下図の斜線部分に焦点をあてて研究に取り組んだ。



○研究主題

(児童の実態からの課題)

- ・人と人との関係
- ・仲間づくり
- ・互いの違いを認め合う心の育成
- ・命の大切さ
- ・相手の立場に立って考える
- ・思いやる心情

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 自分の思いや考えをまとめたり整理したりする時間を確保したり、伝え合う交流の場を設けたりすることを通して、自ら思いや考えを伝えることができる児童の変容が見られた。
- 取り組みを通して、様々な思いや考えがあることに児童が気づいたり、相手の思いや考えを理解して聞いたり、受け入れたりすることはできてきた。
- 相手にわかってもらえるように自分の言葉で伝えたり、相手の思いや考えを受け入れたりすることの経験により、児童の変容が見られた。

(2) 今後の課題

- 自分の思いや考えが相手と違った時に、相手のことを考えたことからどのように伝えていくか戸惑っている児童の姿があった。
- 相手のことを考える中で、自分の思いや考えをどのように伝えていくかという今後の学習の進め方を検討していく必要がある。
- 相手の思いや考えを聞いたり、受け入れたりすることはできるが、受け入れられていないと感じていることがある。自己肯定感を高めるためにも、さらに認め合える場、交流の場を大事にしていきたい。